

きらり

4

2022 APRIL

きらきら、スイート、プリンセス。



【あぐりSPECIAL】

「協同組合」ってなんだろう？

今こそ、JA香川県とみつめなおそう
“協同のちから”

【らいふSPECIAL】

今こそ地域に“にぎわい”と笑顔を！

JA香川県の「支店協同活動」


JA香川県は
自己改革に
取り組んでいます！

農業者の所得増大

農業生産の拡大

地域の活性化



うらかな春の訪れとともに、令和4年度がスタートしました。就職や進学などで新しい生活の一步を踏み出したりこれまで以上に家庭や地域で過ごす時間を大切にしたいと新たな気持ちで新年度を迎えている方も多いと思います。今月は、私たちのJA香川県と「協同組合」について改めて、自己紹介させていただきます。

Top Message

JA香川県は、2019年1月にコープかがわ(香川県生活協同組合)との包括連携協定を結びました。また、香川県漁業協同組合連合会や香川県森林組合連合会などの他の協同組合との連携強化も進めています。

相互扶助を旨とする協同組合の思想と実践は、ユネスコの「無形文化遺産」に登録されています。当JAとしても、本年度4月から始まった新たな3か年の「第7次中期経営計画」において、協同組合の一員としての役割を明記し、農業振興と地域活性化への取り組みを他の協同組合との連携により実現していく所存です。組合員・地域の皆さまのいっそうのご理解とご参画をお願いいたします。



JA香川県
代表理事 理事長
木内 秀一

「協同組合」って
なんだらう？
今こそ、JA香川県と
みづめなおそう、協同のちから



「協同組合」とは？



協同組合とは、「同じ目的をもった個人や事業者が集まり、お互いに助け合う組織」です。

JAはその中のひとつである「農業協同組合」。農業者を中心とした「組合員」が、農家の営農と生活を守り高めることなど、よりよい地域社会を築くことを目的に組織された協同組合です。

「株式会社」との違いは？

協同組合と株式会社の違いは、協同組合の目的はあくまで組合員の生活を守り向上させることで、利潤の追求ではないこと。一方、株式会社の目的は利潤の追求にあり、できるだけ多くの利潤をあげてこれを株主に配当することにあります。

| | 協同組合 | 株式会社 |
|-----------|--------------------------------------|----------------|
| 目的 | 利潤を追求せず、組合員の生産と生活を向上させること | 利潤の追求 |
| 組織している人たち | 農業者、漁業者、森林所有者、勤労者、消費者、中小企業の事業者などの組合員 | 投資家、法人(株主) |
| 運営する人たち | 組合員とその代表者 | 株主の代わりに運営する経営者 |
| 運営方法 | 1人1票制(民主的な運営) | 1株1票制 |

協同組合の特色は？

組織設立の動機

協同組合を組織しているのは、一人ひとりでは経済的に弱い立場にある農業者・漁業者・森林所有者、あるいは勤労者・消費者・小規模の事業者です。

協同組合は、これらの人々が相互扶助の精神のもと、連帯して助けあって自分たちの生産や生活を守り向上させるために設立された組織です。



目的は生産や生活の向上

協同組合の目的は、組合員の生産や生活を守り向上させることにあり、協同組合自体の利潤の追求ではありません。この非利潤思想は、世界初の協同組合「ロッチデール公正先駆者組合」が178年前(1844年)にイギリスで誕生して以来、一貫して持ち続けているものです。

組織者・利用者・運営者が同一

協同組合は、組合を組織する者が事業の利用者であり、同時に組合を運営していく運営者であることが特徴です。協同組合を組織した組合員全員が、組合の運営に参加し、全員で組合の方針を決め、全員でこれを実践して事業を利用していきます。

つまり、「組合員の、組合員による、組合員のための組織」。これが協同組合の基本的性格です。

農業協同組合(JA)とは？

農業協同組合（以下、JA）とは、相互扶助の精神のもとに農家の営農と生活を守り高め、よりよい社会を築くことを目的に組織された協同組合です。

この目的のために、JAは営農や生活の指導をするほか、生産資材・生活資材の共同購入や農畜産物の共同販売、貯金の受け入れ、農業生産資金や生活資金の貸し付け、農業生産や生活に必要な共同利用施設の設置、あるいは万一の場合に備える共済などの事業や活動を行っています。



JAは農協のニックネーム



JA（ジェイエー）という名称は、「日本の農業協同組合」の英語表記（Japan Agricultural Cooperatives）の頭文字をとってつけられたニックネームです。シンボルマークは緑のアルファベットのJとAを組み合わせたデザインで、どっしりとした大地と人と人のきずなのイメージを表したものです。

JAは農家以外にも開かれた協同組合です。



JAの組合員には「正組合員」と「准組合員」の2種類があります。「正組合員」は農業を仕事にしている人や団体で、耕作面積や農業従事日数などJAごとに定款でその具体的な基準を定めています。「准組合員」は地域に住み農業以外の仕事をしている人が、居住している地域のJAに一定の出資金を払い込み（※1出資組合の場合）、手続きをすれば加入できます。

「正組合員」も「准組合員」もJAのいろいろな事業サービスや施設を使うことができます。「准組合員」は、「正組合員」と違い、総会での議決権や役員を選挙権などJAの運営に関与することができませんが、地域を支える協同組合の仲間です。

また、JAの事業は組合員の利用を前提としていますが、※2組合員以外の方も一定の範囲で事業を利用することができます。

地域に根ざした協同組合です

正組合員

農業を仕事にされている方です

准組合員

農業以外の仕事をする人で
JAに出資金を支払い手続きをした方です

組合員でない方

制限が発生する場合があります※2

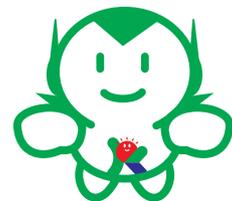
※1 出資組合・非出資組合

出資組合は組合員が出資金を出し合って事業を行うJA。非出資組合は出資金を求めないJAであり、組合員の貯金・定期積金の受け入れなどの信用事業や共済事業を行えないなどの制限が設けられています。

※2 員外利用

組合員以外の方の利用を「員外利用」といいます。組合員でない方の利用分量は農業協同組合法により定められており、組合員の事業の利用分量の100分の20（貯金の受入れなどは100分の25）を超えてはならないとされています。

地域社会を支えるJA香川県の総合事業



JA香川県は、営農・経済・信用・共済といった複数の事業を展開しています。これらを総称して「JAの総合事業」と呼び、組合員の皆さまをはじめとした利用者の生活を支えています。

「JA」や「農協」というと、農家の方（正組合員）しか利用できないイメージがあるかもしれませんが、農家以外の准組合員、そして組合員でない地域の皆さまもご利用いただけます。

JAは株式会社などとは異なる協同組合なので、総合事業の利益は地域の農業や社会のために循環されます。つまり、准組合員やご利用者の皆さまにもJA事業の利用を通じて「地域農業の応援団」として地域農業や地域社会の維持・発展にご協力いただいていることとなります。

地域の農業と社会を支え合う仲間として、これからも末長いお付き合いをお願いいたします。

営農事業

生産者の農畜産物をJAが集荷し、サイズ・品質・規格をまとめて安定的に出荷する「共同販売」を行うことで有利販売に結びつけています。また、荷造り調整などの各種支援、営農指導で農業者の生産拡大を支援しています。



経済事業

農畜産物を生産する上で欠かせない農業機械や農業資材を安価で提供することで生産・出荷コストの引き下げを図っています。県内各地の農機センター（農業機械）やふれあいセンター（農業資材）、農産物直売所などは誰でもご利用が可能です。



信用事業

「JAバンク」としてさまざまな金融サービスを提供しています。生産者の皆さまへの農業融資などによるサポートはもちろん、地域の皆さまの生活のサポートとなる「ライフプランサポート」など各種サービスを行っています。



共済事業

JAでは仲間同士で支えあう相互扶助の精神から、みんなでお金を出し合って不測の事態に保証を提供する制度です。

ひと・いえ・くるまの
総合保障



今こそ地域に“にぎわい”と笑顔を！

JA香川県の「支店協同活動」

JA香川県の全支店が組合員や利用者、地域の皆さまとの結びつきを強くするために取り組む「支店協同活動」。平成27年度から本格的にスタートし、この4月で8年目に入ります。すでにご協力やご参加をいただいている方も、はじめましての方も一緒に地域を盛り上げていきませんか？

組合員地域連携型活動

支店まつり、食農教育、支店だよりの発行、環境美化、交通安全、防犯活動、女性部・青壮年部・運営委員・助けあい組織等との連携など

魅力ある店舗づくり型活動

店舗装飾や季節行事・来店感謝日等の来店者へ向けた取り組み

地域を一つに結びつけ、元気にすることがJAの存在意義。職員も元気をもらっています。



総務部組合員課

木村 雅史 課長
に聞きました。

JAの「支店協同活動」は、農業振興とともにJAの柱である、地域活性化のために継続して取り組んでいる事業です。支店協同活動の目的は、当JAが地域に密着した協同組合ならではの活動を展開し、将来にわたって地域に必要とされる存在であり続けること。そして、組合員や事業利用者との結びつきを強化し、その輪を広げていくことです。

具体的な取り組みは、各支店が地域の実情に合わせて独自の企画や工夫をして行っています。活動内容に応じて支店運営委員、女性部、青壮年部、学校関係、地域の商工会やNPOなどさまざまな方々と連携し、組合員、利用者、地域の皆さまのご協力やご参加を得て実施しています。

これまでも活動の一部を本誌「きらり」誌上で定期的にご報告していますが、中には日本農業新聞や一般の新聞、テレビ（ニュース）などで取り上げられる活動もあり、年を重ねるごとに存在感が高まっていると感じます。

なお、令和2、3年度は新型コロナウイルス感染症の影響で多くの活動が中止や延期を余儀なくされ、大変残念に思っていました。本年度は感染対策を徹底したうえで、できる活動を行っていく予定です。参加される皆さまにもご理解とご協力をお願いいたします。

※新型コロナウイルス感染症の状況によっては、開催の中止や延期、また内容を変更する場合があります。



「第7次中期経営計画（令和4年度～令和6年度）」支店協同活動関連項目

- 支店協同活動を継続して地域の活性化に取り組みます。
- 子育て層やリタイヤ層等の幅広い世代に対して食と農への理解促進を行うため、支店協同活動を通して農業体験の機会を提供します。

産学官連携でアイデアを出し合い 地産地消と食品ロス削減にチャレンジ！

丸亀統括店

産学官連携事業「地元農産物を活用した食品レシピの開発」

実施日：令和3年10月～令和4年2月

実施場所：丸亀市中央商店街、香川短期大学、丸亀統括店管内支店ほか

参加者：丸亀統括店8人、丸亀商工会議所3人、香川短期大学15人、丸亀市民約100人ほか



レシピ選考会で最優秀賞の「キウイ漬け」の説明を行う学生（写真㊤）



サンプル品を配布する香川短期大学の学生

丸亀統括店は令和3年、丸亀商工会議所から産学官連携事業「地元農産物を活用した食品レシピの開発」への協力依頼を受けました。地元農産物のPR、食品ロスの削減、地産地消の促進などに繋がるJAと関係性の強い取り組みであることから、支店協同活動の一環として参画することを決めました。

事務局は丸亀商工会議所で、レシピ

開発は香川短期大学の学生が取り組み、当JAは食材の提供と



丸亀統括店
中野 秀樹 統括店長

令和3年8月下旬に丸亀商工会議所からご提案いただき、新たな取り組みに参画しました。産学官連携協定の中で「食品ロス削減」や「地産地消」などSDGs達成の一助となるテーマを取り上げてもらい、JA香川県が参加することに意義があったと思います。また、丸亀市、香川短期大学のほか商店街や給食センターとの繋がりも生まれ、地域の多様な組織と次回に繋がる活動となったことを喜んでいきます。

アドバイザーや情報発信などを担当しました。
12月上旬に行われたレシピ選考会で、最優秀賞と優秀賞に選ばれたのは「キウイ漬け」と「野菜のふりかけ」。この2品のサンプルを12月19日に丸亀市内の商店街で市民などに配布しました。
なお、当初、サンプル品の配布は令和3年12月と翌2月の2回を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、2月の配布は中止となりました。

地域コミュニティの一員として 子どもたちの安全を見守るんジャー！

高松南部十河支店

「15日はそごうの日」地域組織と一緒にあいさつ運動

実施日：毎月15日（取材日は令和4年1月14日）

実施場所：高松市立十河小学校およびその周辺

参加者：高松南部十河支店3人、学校関係者5人、地域の方々20人、児童25人



あいさつレンジャーは、同協議会の構成団体のメンバーが扮します。この日のレッド（中央）は上田支店長。グリーン、イエローも職員が務めました



校門で児童にあいさつをするレンジャーたち

高松南部十河支店は、支店協同活動の地域貢献活動として、地元のコミュニティ協議会が主催する「15日はそごうの日」あいさつ運動に参加しています。

毎月15日（休日等は前日）の7時から8時まで、同協議会のボランティアで参加する方や「そごうあいさつレンジャー」とともに当支店の職員も十河小学校校門前および近辺の交差点などに立ち、通学する小学生にあいさつをして見守り活動を行っています。

当支店はこの活動に毎月参加してきましたが、昨年度は新型コロナウイルスの影響で中止になった月が多く、11月から再開したものの2月3月は感染再拡大の影響で、再度中止となってしまいました。写真は1月に実施



高松南部十河支店
上田 善信 支店長

この活動を通して、コミュニティセンターの職員の方や地域の皆さま、小学校の児童と交流を行うことで、当支店の職員も地域の皆さまと顔見知りになり、店舗に来ていただいた時も声をかけていただけることもあります。これからも積極的に自分たちから地域活動に参加し、言葉の上だけでない地域に密着した支店を目指します。ここ2年間は新型コロナウイルスの影響でイベントなどが実施できていませんが、今できることから地域に貢献していきます。



元気にあいさつをした児童に、オリジナルステッカーを配ります



したときのもので、児童たちは久しぶりに「あいさつレンジャー」を見て喜び、元気よくあいさつができていました。今後も地域から必要とされるJAを目指して、地域と密着した貢献活動を行っていきます。



4月の
おすすめ



アスパラガス (さめきのめざめ)



野菜ソムリエプロ
川村 章子 先生

プロフィール
野菜ソムリエプロ。野菜でキレイになる料理教室 be-vege(ビーベジ)主宰。レシピ提案、商品開発、講演活動、食育事業や災害時の食の提案も行う。

アスパラと鶏肉の米粉グラタン



調理時間
15分

材料[2人分]

- アスパラガス 1束
- エリンギ 1本
- タマネギ ¼個
- 鶏モモ肉 60g
- 卵黄 2個分
- ニンニク ½片
- 米粉 10g
- バター 10g
- 牛乳 100cc
- 塩・コショウ 少々
(※好みで コンソメ顆粒 ひとつまみ)
- ピザ用チーズ 適量
- オリーブオイル 適量

作り方

- ①アスパラガスは4等分に切り、エリンギ、タマネギは薄切り、鶏肉は食べやすい大きさに切る。ニンニクはみじん切りに。
- ②フライパンにオリーブオイルをひき、①の鶏肉、アスパラガス、タマネギ、エリンギ、ニンニクの順に中火で炒める。
- ③火が通ったら、全体に米粉をふりかけながら炒める。さらにバター、牛乳を加えて、火を弱め、とろみがつくまで混ぜながら炒める。
- ④③に塩・コショウ、好みでコンソメを加えて、味をととのえ、火を止める。
- ⑤④を耐熱皿に入れて、チーズ、卵黄をのせて、オーブントースターで約3分、チーズに色がつくまで焼く。

寒い冬の間、土の中で栄養を蓄え、春の訪れと共に芽を出すのが春野菜。その代表格がアスパラガスです。香川県オリジナル品種「さめきのめざめ」は、穂先がキユツとしまり、根元までやわらかいのが特徴です。

アスパラガスに多く含まれるアスパラギン酸は疲労回復作用があり、新陳代謝を促します。また、穂先にはルチンを多く含み、血管を丈夫にして、高血圧や動脈硬化の予防に効果があると言われます。春のうちに、しっかりと芽の野菜をとって代謝を上げると、夏バテしにくい体作りができます。

さまざま調理や味付けに適したアスパラガスを、今回はお子さまも大好きなグラタンにしました。アスパラガスの風味と食感、鶏肉に負けない主役級の存在感です。

JA香川県WEBガイド



InstagramとFacebookでは讚さん広場のイベントカレンダーを紹介しています。お得な特売日やイベント情報が盛りだくさん。ぜひチェックしてください。

JA香川県
Facebook



JA香川県
Instagram



編集後記

出会いと別れの季節がやって来ました。本誌「きらり」も今年度からは表紙やコーナーが少し変わって、リニューアル。残念ながら3月で最終回を迎えたコーナーもありますが、新しいコーナーとともに今年度も「きらり」をよろしくお願いたします。(M)

